

## 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制	流通経済大学情報・データサイエンス教育推進委員会
(責任者名)	片山直登
(役職名)	学長
② 自己点検・評価体制における意見等	
自己点検・評価の視点	
自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムを構成する授業科目は流通情報学部の必須科目と選択必須科目と選択科目の一部から構成されており、令和7年度春学期の本教育プログラムの履修者数は12名、修了者数は9名であり、履修者の75%である。
学修成果	流通経済大学情報・データサイエンス教育推進委員会では、学期の初めと学期の終わりに本教育プログラムを構成する必須科目(5科目)および選択必須科目(7科目)において確認テストを実施しており、これらの比較により、学修成果の客観的な把握が可能である。また、流通経済大学情報・データサイエンス教育推進委員会は、成績分布システムにより、クラスごとの成績分布および修得者数、修得率を把握することができる。これらの学修状況を担当教員にフィードバックし、授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学のFD・SD委員会は、学期毎に本教育プログラム科目を構成する必須科目および選択必須科目を含む全科目的授業アンケートを実施しており、流通経済大学情報・データサイエンス教育推進委員会は理解度の把握と授業改善に活用できる。当該必須科目的授業アンケートによると、令和7度春学期に必須科目(5科目)において到達目標を達成できていると考える学生の割合は、情報学概論Ⅰでは68.4%、データサイエンスのための統計学Ⅰでは45.4%、応用プログラミングⅠでは78.6%、応用プログラミングⅡでは81.3%、先端情報科学論では86.9%との結果が出ており、全体として授業の理解度を向上させる試みが成果を上げている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムの運用はまだ1年を経過していないので、現時点では上記の授業アンケートを用いて後輩等の他の学生への推薦を行うことはできていないが、来年度から、授業アンケートに記載の満足度に加えて受講生の感想を聞く項目を新たに作成することで、本教育プログラム専用HPにてその情報を掲示し、後輩等の他の学生への推薦を行う。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムは流通情報学部のみ申請するものであり、現時点では本教育プログラムの全学的な展開を計画していない。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本教育プログラムの修了者の卒業生がいないため、現時点では、進路、活躍状況、企業等の評価を把握することはできていない。しかし、本学の就職キャリア支援センターでは卒業生アンケート調査および卒業生の就職等、進路先の意見聴取を行っており、これらの調査に本教育プログラムについての項目を加えることにより、将来的には本教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価が可能である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		現在、本教育プログラムの修了者が卒業していないため、産業界からの意見等を把握できていない。しかし、今後、地元企業、共同研究企業および本学のシンポジウム等に参加している企業と連携し、産業界からの本教育プログラムの内容・手法等に対する意見を聴取し、本教育プログラムの改善を行うことを検討している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		まず、なぜいま文理を問わず全ての学生が数理・データサイエンス・AIを習得する必要があるのかについて、我が国の現状および世界情勢を背景に納得を得るようにしている。その上で、身近にある様々なAIの具体的な事例を紹介することや生成AIを実際に利用することで、学ぶ楽しさや学ぶ意義を理解させる工夫をしている。 結果については、授業アンケートを取ることで、学生の就学状況を分析している。令和7年度春学期では、本教育プログラムを構成する必須科目(5科目)について、授業に参加するモチベーションがあった学生の割合は、情報学概論Ⅰでは70.0%、データサイエンスのための統計学Ⅰでは53.4%、応用プログラミングⅠでは83.0%、応用プログラミングⅡでは89.9%、先端情報科学論では93.5%との結果が出ており、全体として授業における学ぶ楽しさや学ぶ意義を理解させる工夫が成果を上げている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		データサイエンス・AIに関する身近なトピックスを紹介する等、学生が興味を持つ内容を中心に授業を開催している。また、本学のLSMのアーカイブを使い、動画を含む復習用資料を閲覧可能とすることで、教育水準の維持に努めている。 さらに、流通経済大学情報・データサイエンス教育推進委員会の構成員が、私情協などの外部教育機関が主催するデータサイエンス・AI関連教育セミナーに積極的に参加することで、教育内容・水準の維持向上、分かりやすい授業への努力を続けている。 そして、上記教育推進委員会において、授業評価アンケートや修学状況をもとに、分かりやすい授業となるよう、講義内容と実施方法を継続的に改善している。